

佳作 不安から希望へ～日本実習生活の歩み



李 歓歓

LI HUANHUAN

国 籍 中国

職 種 印刷

実習実施者 株式会社アイカ

監 理 団 体 一般財団法人国際クラブ

私はオンライン面接を受け2年前に夢と不安を胸に日本へ実習生としてやってきました。日本語も十分に話せず、見知らぬ土地でちゃんと生活できるか、正直とても心細かったです。1か月間の研修を終え各工場に配属されました。会社は印刷業です。

最初の数か月はすべて大変でした。職場で始めは中国人の先輩から教えてもらったんですが、先輩が満期で帰国してからは日本人の機長と二人で作業をすることになりました。まだ、日本語があまりしゃべらなかったので機長の日本語が早すぎて聞き取らず何度も失敗しました。ミスをするたびに落ち込みましたが、機長から「分からないことがあったら、何度でも聞いてもいいよ」と声を掛けてもらいました。そこからすこしずつ「分からないことは恥ずかしくない」と思うようになりました。私はよく作業中にミスをしていましたが、機長は決して怒ったり責めたりせず、静かに片付けを手伝ってくれました。機長はあまり口数多くありませんが、いつも私のことを気にかけてくれ家から野菜や果物を持ってきてくれました。心からとても感謝しています。

また、隣の機械の機長もいつもおいしいお菓子をくれ

たり、休日には水族館にも連れてくれてとても楽しかったです。工場長を含め職場の方々は優しくくれて私はとても温かい気持ちになりました。これらのやさしさのおかげで日本に来たばかりの時の緊張や不安がずいぶん和らぎました。

生活のなかでは私より1か月早く来たベトナム人のインターシップの同僚と仲良くなりました。国も言葉も違いましたが、休日には彼らとお互いに自慢の母国料理を作って食べたり、翻訳機を使って交流したりして楽しい時間を過ごしました。言葉が通じなくても心はつながることを実感しました。この友達との時間が私の日本での生活を温かいものにしてくれました。

日本語の勉強も毎日コツコツ続けました。仕事で疲れている日もありましたが、みんなとコミュニケーションを取るために日本語は必要なので毎日頑張りました。その努力の結果昨年日本語能力試験N2に合格することができました。合格の知らせを聞いたとき、私は本当にうれしくてすぐに家族や会社の上司に報告しました。社長からは報奨金もいただき、ますますやるきになりました。そして、私は新しい目標をもっています。今年の7月にN1に挑戦しもっと深く日本語を理解して自分の世界を広げたいと思っています。

この2年間、日本での実習生活を通じて私はただ技術や言葉を学んだだけではなく人とのつながりの大切さや努力を続けることの意味を知りました。日本で得たすべての経験は私にとってかけがえのない宝物です。実習生活もあと残り一年ですが、これからも感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって歩き続けたいと思います。